1000年先の未来へ。
美しい里、豊かな海

satoumi project
Seto Inland Sea, Kagawa

かがわ里海大学2022　ステップアップ講座

海ごみリーダーって何なん？！講座 開催しました！

■ 日時　令和4年12月18日（日）9：30～11：30
■ 会場　坂出市万葉会館、沙弥海岸（坂出市沙弥島）
■ 講師　かがわ海ごみリーダー
森田 桂治 氏　田中 真利子 氏　谷 光承 氏　中野 耕治 氏
西森 夏樹 氏　溝渕 誠 氏　安井 里香 氏　山田 富士夫 氏

12月18日（日）、坂出市万葉会館、沙弥海岸にて、「海ごみリーダーって何なん？！講座」を開催し18名が受講しました。「海ごみリーダー」とはどんな活動をしているのか、海岸でのフィールドワークも体験し、実際に活躍中のかがわ海ごみリーダーからお話を伺いました。

はじめに、かがわ海ごみリーダーの方々の活動紹介がありました。海ごみリーダーとしての活動は、ビーチクリーンアップ、海ごみの調査、小学校での総合学習など多岐にわたり、活動を始めたきっかけや活動に対する想いを語っていただきました。

その後、受講者は2つのグループに分かれ、自己紹介を行い、グループごとに海ごみに関する座学と海岸でのフィールドワークを体験しました。フィールドワークはグループで実施内容が異なり、①マイクロプラスチック調査、②ビーチクリーンアップのいずれかを体験しました。

＜フィールドワーク　①マイクロプラスチック調査＞

沙弥海岸に移動し、受講者はマイクロプラスチックについての説明とフィールドワークでの注意事項を聞いた後、調査を行いました。受講者は砂浜に50ｃｍ×50ｃｍほどの正方形の枠を書いて範囲を定めて探したり、砂浜を手で掘り返すなど、講師のアドバイスを参考にマイクロプラスチックを採集しました。

採集を行った後、万葉会館に戻り、採集したマイクロプラスチックを種類ごとに仕分け、その個数を数えました。その結果、緑色が一番多く、講師より「緑色のものは目につきやすく、また家庭の玄関マットなどで使用される人工芝が海に流れ込み小さな破片になる」という解説がありました。さらに、「採集したマイクロプラスチックから元の製品をみんなで推測することで、海ごみ拾いが楽しくなったり知識の幅も広がる」という海ごみリーダーならではのお話に受講者は感心しきりな様子でした。

座学では、講師より海ごみの現状について解説がありました。瀬戸内海では、年間約4,500ｔの海ごみが流入し、その2/3にあたる約3,000ｔが陸地から流入しているため、陸地からの流入を減らすことが大切であるというお話に受講者は興味深く聞き入っていました。

＜フィールドワーク　②ビーチクリーンアップ＞

はじめに、講師より“なぜ海ごみが問題なのか？”というテーマで座学がありました。海ごみの大半はプラスチックなどの生活ごみであり、プラスチックが紫外線による劣化や波の作用などにより破砕され、マイクロプラスチックと呼ばれる直径5㎜以下の小さなプラスチック片になると回収が困難になってしまうとお話がありました。さらに、プラスチックが生き物の体に絡まる、エサと間違えてマイクロプラスチックを食べてしまうなど、海ごみが生き物に与える影響について動画を交えた解説がありました。

座学の後、沙弥海岸に移動し、ビーチクリーンアップを行いました。飲料用ボトルや食品トレイなどの生活ごみが海岸に打ち上げられており、中には海外から流れ着いた生活ごみもありました。受講者からは「1か月前に来た時はごみがなかったが、今日はたくさんあって驚いた」等の感想があり、講師より「海岸によって海ごみが流れ着きやすい時期や場所があり、海ごみリーダー同士での情報共有を大切にしている」というお話がありました。

＜振り返り＞

最後に、講座の感想などをグループで話し合い、代表者が発表しました。「生活ごみを出さないことが海ごみを減らすことにつながると実感した」、「自分の得意な分野を中心に海ごみリーダーとしてみんなに伝えていきたい」などの意見がありました。森田氏より、「海ごみを減らすには多くの人に海に関心を持ってもらい、子どもたちにも伝えていく活動を継続することが大切」というお話がありました。